

臨床薬学専攻（博士課程）の3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について

1. 学位授与の方針【ディプロマ・ポリシー】

臨床薬学専攻（博士課程）において学んだ学生は、修了（学位の授与）時には以下の目標に到達することが期待される。

| 1 | 知識・理解

高度な知識および技能を持った薬剤師あるいは臨床薬学研究者としての能力を持っている。

生体の生理的な調節機構や疾病に対して、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学および医療系薬学に裏打ちされた知識を持っている。

論文投稿のノウハウを理解している。

創薬と臨床を融合させた研究を実施するために必要な知識を持ち、また計画・立案することができる。

| 2 | 専門的な技能

科学的思考力に基づき、臨床薬学領域の研究を遂行する能力と問題を解決する能力を持っている。

チーム医療に参画するための知識、技能およびコミュニケーション能力を持っている。

薬の専門家として、患者のみならず、医療従事者に科学に基づいた適切な提案をするなど、医療現場で活躍できる能力を持っている。

医療、特に薬物療法についての最新情報を常に収集し、実践的に活用できる能力を持っている。

臨床薬学の立場から、創薬研究の研究理論および技術を理解することができる。

臨床の問題点に取り組む臨床薬学研究者となる資質を持っている。

| 3 | 汎用的な技能

社会の要望に応える臨床領域の問題点を解決するための課題の設定および解決するための実践型の研究を実施できる。

臨床領域のみならず、異なった研究分野の理論、技術および発想を取り入れた実験を実施できる。

プレゼンテーション能力および討論力を持っている。

国際的に活躍できる能力を持っている。

| 4 | 態度・志向性

主体的に臨床研究を遂行できる能力を持っている。

臨床薬学研究者としての深い感性や高い倫理観を持っている。

共同研究に参画できる技能・態度を持っている。

2. 教育課程の編成・実施について基本方針【カリキュラム・ポリシー】

学生が上記の目標（ディプロマ・ポリシー）に到達するため、以下のようなカリキュラムを編成する。

【カリキュラムの基本構造】

臨床上の問題点を課題とする研究テーマを設定し、研究する体制を整えている。

研究を行う過程では、複数指導教員の指導のもと独自のテーマについて研究を進めることで、幅広い知識に裏打ちされた科学的思考力に基づく研究遂行能力と問題解決能力を育成する。

研究成果を社会に発信するための発表を奨励する。

最先端の創薬研究の現場における学びの場を提供するため、各種の研究プロジェクトや「システム創薬リサーチコアプログラム」への参加を奨励する。

医薬品開発を治験や臨床研究といった側面からサポートできる能力を育成する。

3. 入学者受け入れの方針【アドミッション・ポリシー】

| 1 | 求める学生像（知識、能力、適性等）

医療現場で活躍する高度薬剤師および臨床薬学研究者となる資質を持った学生を期待する。

薬剤師としての実務のみならず臨床研究にも興味を持ち、研究を遂行する意欲のある学生を期待する。

薬学に対する情熱と明確な問題意識を持ち、倫理性のみならず科学的エビデンスを分析出来る論理的な思考力を持つ学生を期待する。

医療薬学の将来を担う指導者として活躍する意欲のある学生の入学を期待する。

| 2 | 入学者選抜の基本方針（入学要件、選抜方式、選抜基準等）

基本的に小学校から大学（薬学部6年制課程）卒業までの18年の修学期間が必要とされる。その要件を満たさない場合は事前審査が必要で、審査の結果、出願が認められる場合もある。選抜方法としては、一般選抜・社会人特別選抜からなる。選抜基準は、英語、専門試験、面接からなり総合的な選抜を行う。